

# ～自然の中で、みんなと共にやりきろう！～

福山市立駅家東小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 **自然** **勤労生産**

体験活動場所 神石高原町「ながの村」

## 【学校紹介】

○ 本校は、昭和52年に福山市立駅家小学校から分離し、福山市立駅家東小学校として開校した。学区は、福山市の北部に位置し、山裾に広がる緑に囲まれた閑静な住宅地で、遺跡や古墳が多く発掘され、古くより田園の広がる豊かな自然に恵まれた地域である。

保護者や地域の方々の学校教育に対する関心は高く、PTA諸活動はもとより、地域安全ボランティアによる登下校の見守り、コミュニティーティーチャーによるふるさと踊りや昔の遊び体験での指導等、学校教育活動に積極的に参加していただいている。

本校は、算数科を研究教科とし、「考える力・表現する力を育成する授業の創造～コミュニケーション活動の充実を通して～」を研究テーマに、学校長を中心とし、全職員で『豊かな心を持ち主体的に生きる子どもの育成』をめざして教育活動に取り組んでいる

- 校長名：藤井麗子
- 児童数：337名（14学級 特別支援学級を含む）
- 所在地：福山市駅家町法成寺67番地
- 電話番号：084-972-5742
- URL：<http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-ekihiga/>



教育スローガン

「ちえ出せ あせ出せ 力出せ」

## 【体験活動のねらい】

- 日常とは異なる環境の中での体験活動を通して、最高学年に向けて自分で判断し行動する力を育てる。
- 初めて出会う人や友達とコミュニケーションをとりながら協力して活動をやりきらせることで、達成感や満足感、ありがたさを実感し、感謝の気持ちを伝えることができるようにする。
- 自然の中で活動することで、自然の美しさに感動し、自然の偉大さを実感させる。

## 【活動計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
6月 ～ 7月	<b>体験学習に向けて(事前学習)</b> ・ テーマを決める。 ・ 活動計画を立てる。 ・ 「ながの村」について調べる。 ・ 活動内容を決める。 ・ 班編成 ・ しおりを作る。	7  1	総合的な学習の時間  特別活動	学校	教職員
7月	<b>宿泊体験学習(3泊4日)～神石高原町永野</b> ・ 牛の搾乳、餌やり体験 ・ 鍾乳洞探検 ・ 「ふくろうの里親」の方からの聞き取り ・ お世話になった方へのお礼の手紙	22	学校行事	神石高原町 「ながの村」 池田牧場	現地講師 教職員 学生ボランティア
9月 ～ 10月	<b>体験活動を終えて(事後学習)</b> ・ 思い出を詩に残す。 ・ 思い出の場面を版画に表す。 ・ 「感動したこと それがぼくの作品」 1—(6) 個性の伸長	1 8 1	国語 図画工作 道徳	学校	教職員

10月 ～ 11月	発表会に向けて ・ 学習発表会の計画を立てる。 ・ 発表内容を決める。 ・ 学習発表会の準備をする。	8  5	総合的な学習の時間  音楽	学校	教職員
11月	学習発表会	1	学校行事	学校	教職員

## 【体験活動の概要】

### ○「池田牧場」での搾乳・餌やり体験

府中市上下町にある「池田牧場」で、牛の搾乳、餌やり体験を行った。搾乳体験では、牛の大きさに驚き、手を出せない児童もいた。「だいじょうぶ。ぼくもできたよ。」という周りの友達からの励ましもあり、恐る恐る、乳搾りをしてしたが、自分で搾った牛の乳がカップに入ると、思わず表情がゆるみ満足そうだった。餌やりでは、牛の舌の長さや食べる量の多さに驚きながら必死で餌を拾って牛の口元へ運んでいた。「牛の世話をしている人は大変な仕事をされているんだなあ。」と牛乳が自分達の口に入るまでの苦労を体験することができた。



搾乳体験

### ○幻の鍾乳洞探検

鍾乳洞の入り口までは、山道を1時間ほど歩かなければいけない。児童には、容易な活動ではないことを事前に伝えておき、「自分で判断し行動する力」を付けるため、この活動への参加を、児童自身に決めさせた。(全員が参加) 途中、「この先足下が滑るよ。気を付けて。」「木が倒れているから気を付けて。」と前を歩く児童から、後ろの児童へと様子が伝えられた。狭い鍾乳洞の入り口に入った児童は、「涼しい!」「気持ちいい!」と山道の苦労も吹き飛び、達成感に浸っていた。この体験で一番の難関は、帰路であった。「えっ、来た道を帰るの・・・。」それっきり言葉少なに黙々と出発地点をめざした。「もう歩けない。」「がんばって、〇〇ならできるよ。」「あと少し・・・。」遅れている友達の荷物を持って最後の児童が登り切ると、何とも言えない満足そうな児童たちの顔がそろった。～「とても苦労して鍾乳洞へ行ったが、その分、達成感があった。」「危ないときに友達に自然に声がかけられたところが自分のよかったところだった。」～児童の振り返りより



幻の鍾乳洞体験

### ○「ふくろうの里親」見永さんへの聞き取り

20年間「ふくろうの里親」(保護活動)に取り組んでいる見永さんから話を聴かせていただいた。見永さんの活動については、事前学習でも取り上げ、児童の関心をしっかりと高めておいた。ふくろうの雛との出会いや触れ合いの様子を通して、永野の自然を大切にしておられる見永さんの温かい心に触れた児童の中からは、「来年、ふくろうの雛が来る頃にまた来たいな。」という感想が多く聞かれた。



見永さんへの聞き取り

## 【体験活動の効果を高める事後学習】

### ○図画工作「ほって 刷って」

体験活動で学んだ「自分の力でやりきる」ことを根気強く板を彫る木版画の指導につなげ、心に残った一場面を作品にした。



「こわかったけど楽しかった」



「なににでもチャレンジ」



「うわっ」

### ○道徳「感動したこと それがぼくの作品」1—(6)(個性の伸長)

体験活動のアンケートで、学年で最も低い数値であった「自分のいいところ分かる」(自己肯定感)を高めていくことをねらい、信念と努力で個性を開花させていったピカソの生き方にふれ、自分自身を見つめ直す機会とした。

- ・わたしは、まわりにどう見られても自分の信念をつらぬいたピカソの生き方を知って、漫画家になりたいという夢に向かってまわりを気にせずに自信をもって努力していこうと思いました。
- ・ぼくも、ピカソのように自分の好きなことや得意なことをこれからももっと得意にできるように続けてがんばろうと思いました。～児童の振り返りより～

### ○音楽「重なり合う音の美しさを味わおう」

体験活動で学んだ「友達と協力する」を発揮する場として学習発表会を行った。合奏や合唱では、自分で決めたパートに責任をもち、こつこつと努力を積み重ね、全員で一つの作品をつくりあげた。特に合奏では、毎日努力を積み重ねることで、自信をもってステージに立つことができた。演奏終了と同時に起こった大きな拍手から、やりきった満足感や達成感も感じることができた。



成果発表会

- ・初めてアコーディオンパートに挑戦して、できないかもしれないと思ったこともあったけど、あきらめずに友達と一緒に最後までがんばることができて自信がつかえました。
- ・友達と音を合わせると、1人で練習したときとは違って音が重なってとてもうれしくなりました。
- ・毎日練習した合奏「お江戸日本橋」、練習の成果を出し切って演奏が終わったとき、客席からとても大きな拍手をもらって達成感を感じました。～児童の振り返りより～

- ・とても感動しました。一人一人が一つの曲を創り上げているといった感じがしました。みんなで協力してすばらしい演奏でしたね。
- ・みんなよく練習したのですね。自信に満ちた真剣な姿に心を打たれました。～保護者の感想より～

### 【交流先や施設等との連携】

- 第1回目の事前打ち合わせ会、及び現地下見調査において、「ながの村」村長さんと活動内容や活動計画等について打ち合わせをし、宿泊施設内外の確認と現地下見を行った。
- 第1回目の事前打ち合わせ会、及び現地下見調査において、府中市上下町「池田牧場」の施設内外の様子と体験内容の確認を行った。
- 第2回事前打ち合わせ会において、児童の意識・意欲・期待感等を掴むために、「ながの村」村長さんに事前学習の授業参観をしていただくと共に、児童が「ながの村」を意識し、身近に感じる時間とするために児童と村長さんの対面の場を設定した。
- 活動時にお世話になるであろう商店、医療機関等に活動前に直接訪問し、再度依頼と打ち合わせを行った。

### 【評価の工夫】

- 「体験活動のしおり」を活用し、「自分の力でやりきる」、「自分のいいところ分かる」、「友達と協力する」の3点に視点をしぼって活動ごとの振り返りを行い、次の活動へ生かせるように指導した。
- 活動後、児童に全体の振り返りをさせるとともに、保護者からの感想をしおりに記入していただき、児童の成長をとらえた。<次頁に「振り返りシート」を掲載>

**3泊4日の体験活動を終えて**

① 自分の方で活動をやりきることができましたか。  
 よくできた      できた      あまりできなかった      全くできなかった

② 自分に自信がもてるようになりましたか。  
 たくさんもてた      もてた      あまりもてなかった      全くもてなかった

③ 班の友達と協力することができましたか。  
 よくできた      できた      あまりできなかった      全くできなかった

④ 体験活動全体を通しての振り返り（活動前と活動後の自分をくらべて感じたことなど）を書きましょう。

☆ おうちの人からひと書

<振り返りシート>

・活動前は不安だったけど、自分でできることは自分でして自分でできないことは友達と協力してできた。活動後はいろいろなことに挑戦してみようという気持ちになりました。

・普段親に頼ることが多いので不安だったけど、自分達で活動することができて、自信がもてました。

・家族がいないととても心細いなと思っていた。そんなときこそ友達と支え合って3泊4日という長い体験活動をのりこえてこられて、「友達っていいな。」と改めて思いました。

・不安でいっぱいだった顔が、3泊4日で見違えるほど成長して帰ってきてくれてとてもうれしかったです。本人としても親としても自信がもてた体験だったと感じました。

・無事やり終えて帰ってきた我が子を見て、とてもたくましく成長したと実感しました。普段の生活ではできない体験をし、友達と力を合わせる大切さなど感じ、貴重な体験もたくさんできた3泊4日だったのだなと感じました。この経験は、一生の宝になると思います。

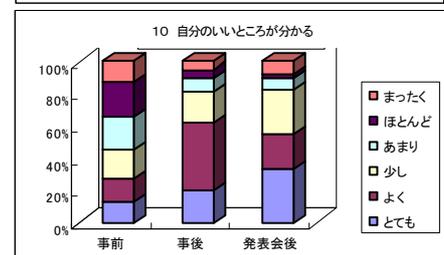
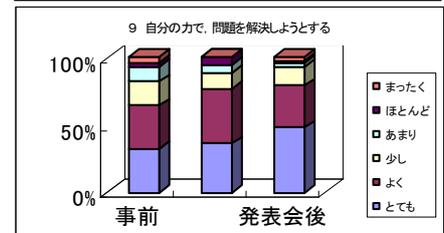
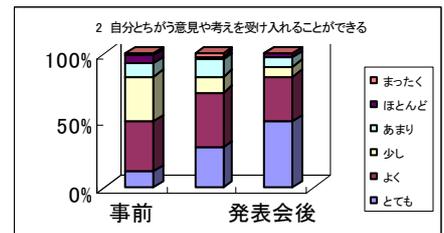
**【安全面の配慮事項】**

- 事故災害発生時に引率職員が適切に対応できるように、対応マニュアルを作成した。
- 活動場所の環境や周辺環境、移動時間の把握、危険箇所や携帯電話の使用可能場所等の確認を行うため、引率予定職員で現地の下見を複数回行った。
- 緊急時の受け入れ医療機関について、事前に訪問し確認を行った。
- 事前に児童の健康調査を実施し、児童の健康状態や緊急時の保護者への連絡先等を養護教諭が取りまとめ、引率者全員が情報を共有し、指導に当たった。
- 健康観察を毎朝夕行い、児童の健康状態の把握に努めた。
- 緊急用車両を宿泊施設敷地内に常時配置し、緊急時の迅速な対応に努めた。
- 十分な水分補給や消化吸収のよい食事に心がけて献立を考えた。また、食事時の児童の様子にも留意しながら健康状態を把握した。

**【体験活動の成果と課題】**

- 3泊4日の集団宿泊活動を行うことで、友達との関わりが増え、以前より友達への理解が深まった。そのことで友達への考えや思いを受け止めながら協力することができるようになったと感じる児童が増えた。このことは、活動後の学校生活の中で、班活動や学級会等の話し合い活動の場面で、自分と反対意見が出されてもすぐに否定せず、相手の考えの根拠を聞いて判断しようとする姿にも表れてきている。
- 班長を中心に自分たちの力で活動をやりきることができるようになり、指導者からの指示を必要最低限に精選した。そうすることで活動中に生じた課題に対して、班長を中心に自分達で話し合い、自分達の力で課題を解決することができるようになったと感じる児童が増えた。活動後、学級での問題も自分達で解決しようと話し合う姿が多く見られるようになった。
- 普段よく頑張っているように見える児童でも、自己肯定感が低いことから、頑張っているところやいいところを評価して、伝える必要があると考えた。そこで、班長を中心に、友達の頑張っているところを見つけ、言葉で相手に伝えることを意識させた。また、指導者も児童の頑張りを多く見つけ、その都度見

<児童アンケート結果(一部)>



童に言葉で伝えていくように継続的に取り組んだ。活動後も運動会や学習発表会などの行事毎に保護者からの感想を児童に伝え、自分達の頑張りを再認識させた。それらの取組が、児童の自己肯定感を高めることにつながっていると考える。

- 日常ではない環境の中で、挑戦して成功したり失敗したりする経験を通して、児童が自分を見つめ直すことができるようになり、何にでも挑戦してみようという意欲が高まった。
- 努力や忍耐を必要とする活動を取り入れることで、協力して一つの活動をやりきったときの達成感や成就感を共有させることができた。
- 成果発表会を通して、相手を意識して分かりやすく話したり、聞き取りやすい声の大きさや速さを工夫して話したりするなどの表現力を高めることができた。
- 班長を中心とした集団行動を徹底したことで、互いの意見を出し合い、意見をまとめることができるようになった。集団としての団結力が増し、集団として一つのめあてに向かって取り組むことの楽しさを感じるようになった。
- 児童は、家族のもとを離れ生活したことにより、甘えを克服し、普段気づかなかった家族のありがたさに気づき、感謝する気持ちをもつことができた。
- 体験活動を通して子どもが成長したと感じている保護者の割合は90%を超えている。寄せられた感想にも肯定的なものも多く、体験活動を児童の成長の機会としてとらえ、満足していることが伺えた。

#### <保護者の感想（一部）>

- ・「一つのことに対して自分の努力、みんなの努力が一つになったときの感動・達成感を子どもながらに感じているようです。」
- ・「物の大切さや人に対して(友達との繋がり)を今まで以上に大切に思っているようです。また普段の生活のありがたみも特に感じるようになったようです。」
- ・「自分で感じたことを言葉にし、意見も言えるようになってきました。」
- ・「会話が増えて明るくなりました。前よりどんなことにも前向きに取り組んでいるように思います。」
- ・「体験活動を終えてから、自分でなくてはいけないという気持ちももてたと感じるし、自分で行動する場面が増えました。少し大人になったように見えます。」
- 「自分の力でやりきる」、「自分のいいところ分かる」、「友達と協力する」の3点に視点をしぼった振り返りや評価等を、体験活動後の行事や学習活動にもつなげて指導を継続したことが、事後の児童の意識向上を継続させることに効果的であった。今後も、職員が意識統一をし、最高学年や中学校に向けて継続した指導を続けていく必要がある。

#### <保護者アンケート結果(一部)>

